RPJ News

2024 年　新年号

特定非営利活動法人（NPO法人）
精神保健福祉交流促進協会　Refresh Project
〒130-0001　東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801
毎月1回発行
発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守
E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

ホームページ　http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/

内　容

＊ 2024 年を迎えて

○ 新年のご挨拶　理事長　正光会御荘診療所　長野　敏宏

○ 2024 年年頭のご挨拶
協会理事　埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック　白石　弘巳

○ 謹賀新年　協会理事　尾道のぞみ会　高垣　孔幸

○ 荒れる年のごあいさつ　協会監事　エスポアール出雲クリニック　高橋　幸男

○ 年頭に思うこと～コロナ禍を終えた新年を迎えて～
協会理事　出雲市役所　三島　武司

○ 新年のご挨拶　協会監事　正光会　渡部　三郎

○ 令和 6 年能登半島地震の今
協会実行委員　NPO 法人むげん　藍田　寿弘（富山県射水市在住）

○ 新年のごあいさつ　協会実行委員　株式会社つがるねっと　貴田岡　武

○ 継続は力なり　協会実行委員　エスポアール出雲クリニック　形部　周平

○ 大変な年の幕開け　協会実行委員　尾道のぞみ会　橋本　周治

○ 新年のご挨拶　協会実行委員・事務局　正光会御荘診療所　中野　良治

＊ 2024 年を迎えて

○ 新年のご挨拶

理事長 正光会御荘診療所　長野敏宏

能登半島地震で被災された方々にお悔やみ、お見舞い申し上げます。

多くのことを考えさせられる年明けとなりました。大きな転機の一年になりそうです。

今年は、さらにみなさんと交流促進協会の今、今後に関してしっかりと対話していきたいと考えています。日本の、また、世界の精神保健医療福祉はますます多くの課題に直面しています。積み残しの課題、ようやく見えてきた課題、あらたにできてきた課題。多くの人の人生が、極めて不十分な支援体制から失われていると考えざるをえません。また、あらゆる点でパラダイムシフトが不可欠であるにもかかわらず、過去の成功体験や失敗体験にとらわれ、止まってしまっている現状を目の当たりにし続けているような気もします。交流促進協会の本質はこれから発揮されると考えています。多様な考え方、多様な実践、多様な人を、ありのままで緩やかにつなぎ、つながり、柔らかな未来をゆっくり創り出していく、個人的にはそんなイメージをもっています。そのための法人のあり方、運営の仕方、また、将来像へのご意見など、とにかく対話を重ねたいと思います。よろしくお願いいたします。

谷中さん、仁木美知子さんからの宿題は何だったのだろう、と思いをめぐらせつつ、今年もよろしくお願いいたします。

○ 2024 年年頭のご挨拶

協会理事 済生会なでしこメンタルクリニック　白石 弘巳

皆様、あけましておめでとうございます。

大地震と航空事故が相次いで発生し、騒然とした年明けを迎えております。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。昨年の漢字は「税」でしたが、「災」でもよかったのではないかと思うくらい、近年、日本および世界で深刻な人災、自然災害が多発しています。明日には自分たちの生活が激変する可能性があります。改めて「治に居て乱を忘れず」の心構えで生活することが求められていると感じます。

私は昨年満 70 歳の誕生日を迎えました。身近で訃報を聞くことも多くなり、残された時間は長くはないと感じます。でも、最期まで、苦しんでいる人に必要とされる者であり続け、ささやかでもチャレンジ精神を忘れずに生けていけたらと思っております。

当協会への活動については、連日外来勤務のため、現地でのリフレッシュセミナーに参加するのは困難かと思いますが、休日や夜間のオンラインセミナーの企画があれば、是非参加させていただこうと思っております。

この一年が、皆様にとって実り多い年でありますよう、お祈り申し上げます。

○ 謹賀新年

協会理事 尾道のぞみ会　高垣 孔幸

皆さまには旧年中、ひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年を迎え、職員一同、一層充実した福祉サービスを提供し、より多くの笑顔に接していけるよう努めて参ります。皆さまにおかれましても、ご健康とご多幸の年でありますよう、心からお祈り申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

○　荒れる年のごあいさつ

協会監事　エスポアール出雲クリニック　　高橋　幸男

明けましておめでとうございます。

昨年末に、来年は荒れた年になるであろう、と書いた評論家がいましたが、わたしもそう思っていました。しかし、本年は新年の定番の文言さえ使いにくいほど、「こんな元旦になるなんて・・」と誰もが思う能登半島での大災害が発生し、今も行方不明の方々が大勢いらっしゃいます。毎日報道される現実を、東日本大震災の記憶を引きずったまま、言葉なく心がつぶれそうな思いで受け止めています。

そんななかで、今年はどんな年になるだろうか、と思いを巡らしましたが、なかなかまとまりません。たまたま、本棚にあった「地域精神保健　国際セミナー2010『リカバリーの実践』カリフォルニア州の精神保健最新情報」を目にしました。リチャード・ヴァンホーンさんの講演内容が書かれていますし、わたしも地域実践報告者のひとりとして出雲での実践を報告させていただいていました。わたしも含めて登壇されている皆さんのひと昔前のお若い写真が載っていましたが、そこには亡くなられた谷中輝雄先生の懐かしいお姿も載っていました。感慨深く見つめました。

その報告集をめくっているうちに、かつて「出雲を第 2 のヴィレッジに」などと恥ずかしいことを言い、1996 年 10 月（ヴィレッジ研修は 1995 年から始まっていますが、わたしは 1996 年の第 2 回セミナーに参加）に、出雲で、当時は「やどりの里」が主催し、「ふあっと」が協力する形で「ヴィレッジセミナー」を開催したことを思い出しました。当時のヴィレッジ研修では、通訳だけでなく講師としても大変お世話になった故秋吉光雄さんが、ヴィレッジの当事者団体のプロジェクト・リターンから会長のビル・コンプトンさんら6人の当事者をつれて出雲に来て頂きました。精神保健実践セミナー「地域で暮らす～ヴィレッジにおける生活支援から学ぶ」と銘打ったセミナーでは 6 人全員に登壇して頂き、当事者交流会を開きました。その頃のことは忘れてしまったことも多いのですが、出雲から第2回ヴィレッジ研修に参加した「ふあっと」の仲間数名と当院のスタッフが中心になって、大胆なことを言い、大胆なことをしたんだなぁ、と感慨深く思い出しています。

ヴィレッジ研修での学びが大きく、その後のわたしたちの実践に影響大であったことは事実です。出雲でのヴィレッジセミナーの記録に「患者さんの失敗を恐れて『あまり無理をしないほうがいいよ』と安易な言い方をしてきた自分を振り返り、精神障害を患って生きるということはどういうことか、当事者を支援するということはどういうことなのか考えさせられ、大きな視点を与えていただきました」と記載していますが、今もって大切で、自分に対する戒めの言葉であると思っています。

ところでここ最近は、私自身の立ち位置にも関係あるかもしれませんが、地域生活支援活動の拡がりに一時のような勢いは感じられなくなっていますが、精神障害を患った人たちが暮らしやすい世の中になったということでしょうか、どうでしょうね。

一方で、以前にも増して当事者の就労支援が大きなテーマになっていますが、就労支援現場では、相変わらず「精神障害者は不安定だよね」という言い方が、就労支援に携わっている人たちからももれる現実があります。古くて新しい表現ですが、わたしは「精神障害者が就労現場で不安定にさせられている」ほうが大きいのだと確信しています。

精神障害を患って就労する、ことの成否は結局、就労意識がある当事者が、就労現場でその当事者が不安定になりうる要素をいかに少なくして支援できるか、にかかっているのではないでしょうか。当院のエスポアールファームの実践は形部氏が書いてくれますが、そのことをいかに実践できるかであろうと思っています。障害を患ってもその人らしく働ける、それをいかに実現させられるかです。就労支援におけるIPSの考え方もそこが一番大切でないかと思っています。

私がヴィレッジ研修に参加した当時は、IPSの考えはまだ普及していなかったはずですし、今のヴィレッジでは当事者の就労支援はどのように考え、対応しているのか知りたいと思っています（すでに報告されて

いることかもしれません）。わたしは老いたのですが、若手がヴィレッジに行ってくれたらと思っています。
まとまりないことを書きましたが、荒れる年の新年のごあいさつとします。

○ 年頭に思うこと ～コロナ禍を終えた新年を迎えて～

協会理事 出雲市役所 三島 武司

みなさん明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、私事ですが、昨年12月に還暦を迎え、市役所人生もいよいよラストスパートをかける段階に突入しました。現在は、慣れ親しんだ福祉・教育関係の部署を離れ、「総務部」で窮屈な生活を送っております。

長かったコロナ禍において、残念ながら仕事に限らずあらゆる面で、人と人のつながりが希薄になっているように感じています。それは、出雲における「ふあっと」の活動にも大きな影を落としています。

新型コロナの5類移行後、これまで中止や規模を縮小されてきた地域での活動も様々な催しなどが再開され、賑わいを取り戻しつつあることも事実ですが、以前の輝きには遠く及ばないと感じています。

しかし、下を向いているばかりでは何の解決にもなりません。人と人とのつながりを大切にしながら活動してきた「ふあっと」を今一度見つめ直し、連携の拡大・強化を図っていきたいと考えています。具体的に何をするかについて、答えは見つかっていませんが、まずは、何か起爆剤になるようなことができないか、思案中です。皆様、いい知恵があったらご教示ください。

○ 新年のご挨拶

協会監事 正光会 渡部 三郎

新年明けましておめでとうございます

元旦から能登震災、続けて羽田空港事故で幕開けとなった辰年です。

「安全な環境で安心して暮らせることが一番の幸せ」を再確認しました。
お互いに助け合い、自分に出来る役割を楽しんで過ごしていきましょう。

皆様のご健康とご活躍を心より願います。

○ 令和 6 年能登半島地震の今

協会実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘（富山県射水市在住）

令和 6 年 1 月 1 日、午後 4 時 10 分頃「令和 6 年能登半島地震」が発生しました。

私はお正月の運動不足解消のため富山市にある富岸運河を散歩しておりました。
往復5キロほどの散歩を終え、車に戻ろうと運河沿いを歩いていた時に急に揺れに襲われました。スマートフォンからのアラームは聴こえましたが、最初は何が起きたかわかりませんでした。運河を避け車に戻ろうとしましたが、一歩を踏み出しながらその都度バランスをとり、10 メートルほど移動するのにも時間がかかった

ように思います。

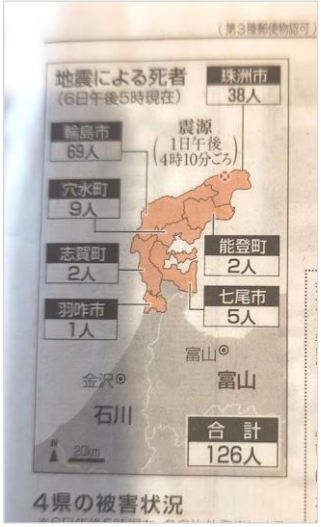
移動中に大きな地震だということが認識でき、津波警報の発令の前でしたが、高台への避難を考え、すぐに行動しました。

移動中の車の中ではテレビから「津波警報が発令されたこと」「命を守るための行動をとるように」との大声でのアナウンスが繰り返し行われていました。

呉羽山にある高台に到着し、そこから動かず、他職員と連携しながら施設利用者や職員の安否確認をラインや電話で順次行いましたが、海沿いに住んでおられる方に連絡がとれるまでには少し時間がかかりました。

北日本新聞
1月7日
富山の30代女性死亡
珠洲に帰省 家屋倒壊
県内住宅被害増605件
能登半島地震
石川の死者126人
発生124時間 女性救出
穴水震度5強
「困っている人の力に」
ボランティア活動本格化
氷見で震度4

午後 8 時頃に自宅近くの避難所を確認し、自宅にもどりました。自宅 1 階では置時計や写真等が散乱し、食器がいくつか割れ散らかっている状況でしたが、2 階の書斎は複数の本棚（カラーボックス）が飛び散りドアが開かず、部屋に入れない状況でした。（射水市は震度 5 強）



車中泊も考えましたが、1 階の部屋を片付け、手近にあった饅頭などを口に入れ、とにかく布団を敷き、寝ることにしました。

余震が続くなか、翌朝からは民生委員の妻が、地域の 10 軒ほどの単身の高齢の方の安否確認をするため同行しました。いずれのお宅でも落ちた物を片づけておられたり「中庭にある灯篭が倒れた」「壁にひびがはいったどうすれば良いか」「大丈夫だが、怖かった」などの話を聞きしたりしましたが、怪我や大きく体調を崩された方が無かったことで一安心して帰宅しました。

この原稿は 1 月 7 日の朝に作成しています。

この間、仁木さんをはじめ、全国の関係者から安否の問い合わせや、支援の申し出も多数いただき、感謝しております。

1 月 4 日には施設（NPO法人むげん）が開所でき、初詣や書初めを全員で行い、5 日からは通常のB型所運営・地域活動支援センターの運営ができました。

書初めの後、今年の目標と共に、書初めに込めた思いを一人一人から伺いましたが、決意と同時に、震災後いつものように服薬をしていても眠れず、体調はあまりよくないと発言される方もおられました。

富山県は今回の震源地能登（石川県）の隣ですが、富山県氷見市は能登半島の付け根に位置しており未だに断水が続き家屋への影響も大きいものがあります。

地元射水市の社会福祉協議会にはボランティア希望者が殺到し、その調整に追われている状況が続いています。

震災による被害の状況は時間の経過とともに明らかになり、その被害の大きさ深刻さは全国の皆さんにも伝わっているところですが、その支援については動き始めたばかりで、まだまだこれからといった状況にあると思っています。

能登は日常の生活のなかで度々訪れ、その街並みや文化や食を楽しんできました。

映像で見るそれぞれの地域の被災状況を見るにつけ、心穏やかではいられず、精神保健福祉士協会や関係団体の方々と共に、微力ながら富山県内の復興だけでなく、能登各地への息の長い復興への協力ができればと考えています。

今年も宜しくお願い致します。

○ 新年のごあいさつ

協会実行委員　株式会社つがるねっと　　貴田岡　武

皆様、明けましておめでとうございます。

今年は1月1日に石川県能登地方で大きな地震がおきました。被災地ではいまだ続いている余震と寒さ中、不安が募る状況ではあると思います。この地震によりお亡くなりになされた方々に謹んでお悔み申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

昨年も色々あったのですが、コロナが 5 類に移行して、予防をしながらもイベントなどで外に出る活動も多くなりました。青森県は農福連携を強くプッシュするようになり、市の農福連携受注窓口を行うようになってから、市の農政課や県民局とつながり農家さんと繋がる機会が増えました。個人的には農業の難しさを懸念していたのですが、いざやってみたときにメンバーの会社で見たことのない笑顔や動き、農家さんの優しさに農業の可能性を感じた 1 年になりました。

今年は「農業」をキーワードにメンバーや農家さんが安心して活躍できる活動を増やし、そこから誰もが生活しやすい町づくりの一歩を進めて行けたらと思います。

今年も色々あると思いますが、皆様よろしくお願い致します。

○ 継続は力なり

協会実行委員　エスポアール出雲クリニック・エスポアールファーム　　形部　周平

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

このお決まりの文句すら躊躇う震災が、皆の賑わう元日の夕暮れに襲来しました。ひたすらに被災された方たちの一刻も早い救援と地域の復興を衷心よりお祈り申し上げます。

さて、心は穏やかではありませんが、エスポアールファームのこの一年の活動の経過をご報告いたします。その前に、RPJ News ではどこまでお伝えしたかな？と振り返ってみますと昨年の新年号以降は寄稿しておらず、“あぁ、そうか”とそのあまりの忙しさと切羽詰まった日々を昨日のように思い出します。結論を申しますとあらためて農作物（菌床椎茸）を育て販売することの大変さを痛感した一年でありました。

昨年 1 月に 2 万菌床の栽培をスタートしましたが、当初栽培した菌床は 1～6 ヵ月をかけて山なりに発生（収穫）量が推移するタイプであったにもかかわらず、初回の発生刺激から暴走機関車のように全菌床の椎茸発生が止まらず、1 週間で 1～1.5tもの収穫ペースが約ひと月続きました。2 坪ある冷蔵庫は、2 日で満タンになるほどで、“休み”もなく、週に 1 回は少し長めの昼寝ができる程度の時間をとるのが精いっぱいでした。ただ、当院の『就Ｂ事業所だんだん』やお隣の『就Ｂ事業所（同じく菌床椎茸栽培を作業としている）』には出荷作業（軸切、選別、袋詰め）を中心に大変お世話になり、何とかこの窮地を脱する（細かい事は省略しますが、菌床の管理を含めあれやこれやと色々取り組みました）ことができたのでした。

押し寄せる数万もの椎茸の大群

一旦は収まった暴走機関車も、再び発生刺激を与えると何度も同じことを繰り返したので、発生刺激をする菌床数を減らし、刺激の強さや時間を調整する等して、1 日に出荷できる発生量をコントロールしました。一見、大豊作で良いではないか、と思われるかもしれませんが、菌床の椎茸発生面はせいぜい横 10 ㎝×縦 20 ㎝の狭さですから、その面に 20～30 本の椎茸が生えてしまえば、当然すし詰め状態になって、小さくて変形した椎茸しかできず、品質（丸くて肉厚のある）は落ち商品単価も下がってしまうの

です。実際に、半期の実績を見ますと、予定していた総収穫量よりも 1t以上多く採れていたのですが、売り上げは予定していた金額よりも低くなっていました。こうした経験も新米農家の通る道なのでしょうが、半期を過ぎた頃からはひとまずある程度のコントロールが可能になり、働き方も徐々に良くなってきたと感じています。

大変だったことは他にもたくさんありますが、前文も含め私の不幸自慢になっても仕方ないので、話題を変えたいと思います。言わずもがなですが、私たちが合同会社を設立し菌床椎茸栽培に取り組んだのは『障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり』を達成するための手段の一つであることを忘れてはいけません。椎茸栽培は目的達成のための言わば手段の手段なのです。私は現場作業の中心に居ますから、農家としての視点（安心安全で良品質のものを育てたい）が強過ぎて、私だけならまだよいですが、そこで働いてくれる人にも負荷や期待（もっとこうしてほしい）を掛け過ぎています。手段の手段として考えられれば、もう少し楽にできるのかもしれませんが、会社経営や農家として、とても葛藤があります。このあたりは長野先生をはじめ全国の方々にお会いできれば是非お話をお聞きしたいと思います。

今年もまだまだ忙しくなりそうです。私は今年で 42 歳になりますが、身体的には少しずつ衰えも感じ始めました。例えばマラソンを走りきろうとすれば途中で諦めてしまうでしょうが、前向きに歩くことならやめずに出来そうです。前進は止めない。近道もないけれど少しずつ目標に向かっていきます。継続は力なりです。

それでは、皆さまの夢や希望が叶う年になりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

追伸、昨年の新年号に載せた“廃菌床を使った何やら楽しそうなこと”も別チームが徐々に活動を進めています。まだ形にはなっていませんが、これもまた別の機会にご報告できればと思います。

○ 大変な年の幕開け

協会実行委員　尾道のぞみ会　　橋本　周治

このたびの石川県能登地方を震源とする令和 6 年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。

被災地では、相次ぐ余震と寒さの中、不安が募る状況が続いておられますが、皆さまの安全と、一日も早い復興をお祈りしております。

私たちも何かしらのご協力ができないものかと、まずは募金箱を店舗に設置することとしました。微力ながらも、お役にたてればと願っております。

さて、私の近況としては、自らの意思決定以外での何か抗いようのない大きな波に巻き込まれているのか、内在化していた課題が次々と表出し、その対応に常に追われている感があります。一つひとつは小さな波なのですが、それらがまとまって大きな波になって纏わりついてくる感覚というのでしょうか、ボディーブローのように効いてくる。抽象的な表現で申し訳ありませんが、おそらく今後もこの逃れようのない流れは次々と続いていくのだろうと感じています。しかし、表出した課題をやりすごすのではなく一つひとつ丁寧に取り組むしかないので、腹を据える 1 年になります。

その取り組む課題のひとつに「委託相談支援事業の消費税課税問題」があります。「市町からの委託相談支援事業の委託費は消費税の課税対象である」と国税庁が正式にコメントしました。全国の市町で誤認があると言われ、尾道市もそのひとつです。税務署に「非課税である」と確認をとっていたのにも関わらず、税務署も誤認していたと言い、5 年分の修正申告と追加納税をすることとなりました。納税が嫌なの

ではありません。納得ができないのです。ぜひ、このことについては全国の皆様のご意見も拝聴したく存じます。

初詣の際のおみくじも予見したように「波乱万丈な年となる。覚悟せよ」と書かれていました。今年は大変な年になる、そんな風に考えながら消費税の修正申告書を作成している、そんな年始です。

＊明るい話題でなく、申し訳ありません。

○ 新年のご挨拶

協会実行委員・事務局　正光会御荘診療所　　中野　良治

新年あけましておめでとうございます。

元旦から能登半島での地震、羽田空港での事故と大変な年始となってしまいました。

被災地の状況もまだ詳細には分かってはいませんが、石川県にも関係する方がおられ、支援物資などの準備をすすめることになっています。

さて、今年は協会の今後の活動について皆さんと話し合う機会が必要かと思います。しばらくお会いできていませんので、どこかで集まれると幸いです。

原木しいたけ、かんきつ、アマゴ・・・順調です。

こちらみんな元気です！

今年もどうぞよろしくお願いします。

－編集後記－

今年は残念ながら大災害と大事故から始まってしまいました。能登地方を震源とする令和 6 年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。また色々なエラーが重なった結果発生してしまった航空機事故、災害支援に向かわれるなか殉職された自衛隊の方々のご冥福もお祈り申し上げます。

さて 2024 年の幕開けですが、当会は 2002 年やどかりの里から分離した「ヴィレッジセミナー」を核に協会を設立、2003 年 NPO 法人化を経て本格的活動を開始しました。その間、国内セミナーと海外セミナーを中心の活動と捉え、ヴィレッジセミナー21 回、イタリアセミナー13 回、カナダ・トロントACT セミナー11 回、バンクーバーセミナー3 回、イギリスセミナー3 回行ってきました。しかしコロナ禍で 2019 年のイタリアを最後に海外セミナーは 4 年間自粛となっています。

法人化から 20 年、今後については新たな方針が出されることを期待しております。（m.niki）

特定非営利活動法人　精神保健福祉交流促進協会